

2016年4月17日

福音書からのメッセージ

わたしの羊はわたしの声を聞き分ける。わたしは彼らを知っており、彼らはわたしに従う。

(ヨハネによる福音書10章27節)

今日の箇所には、このような言葉がありました。「いつまで、わたしたちに気をもませるのか。もしメシアなら、はっきりそう言いなさい」。

この言葉は、イエス様に対するユダヤ人のものでした。イエス様とは一体何者なのか、わたしたちのメシアなのか、はっきりと示してほしい。彼らユダヤ人が待ち望んでいたメシア像は、政治的にも、社会的にも、自分たちを解放してくれる人であり、力によって悪を追い払ってくれる、そのような救い主でした。

このユダヤ人の気持ちに思いを馳せている中で、大きな地震のニュースが入って来ました。木曜の夜に熊本を襲った大きな地震。その地震は収まる気配も見せずに、金曜未明に本震が起こり、ひっきりなしに広い範囲で余震が繰り返されています。

その状況を目の当たりにしたときに、もうやめてくれ、沢山だ。そのような思いが胸の底から湧きあがってきました。

みなさんも、今回の地震で同じような思いを持たれた方がおられるかもしれません。また、阪神淡路大震災、東日本大震災、ネパール大地震、御嶽山噴火、広島のと砂災害、鬼怒川の氾濫、ありとあらゆる自然災害の前に、わたしたちはなすすべなく、茫然と立ち尽くすしかない。そしてなぜ、どうしてと叫び声をあげるのです。

その姿は、「いつまでわたしたちの魂をもてあそぶのか」と叫んだユダヤ人とどう違うのでしょうか。わたしたちは復活のイエス様に出会っているはずです。イエス様



が共にいて下さるといふ思いを持っているはずなのです。でも時々、その確信が揺らぎます。まざまざと悲惨な状況を見せられて、発する言葉。あなたは本当にわたしたちの救い主ですか。メシアならばそうだとはっきり言って欲しいというイエス様に対するその言葉は、果たしてユダヤ人だけのものでしょうか。わたしたち一人一人の言葉ではないのでしょうか。

しかし神さまは、わたしたちをお見捨てにはなりません。神さまはそのようなわたしたちのために、イエス様に疑いの目を向け、拒絶し、裏切り、否定するわたしたちのためにその独り子をお与えになりました。

わたしたちが信じる者となるために、神さまはその独り子イエス様を世に遣わされました。イエス様の十字架の死と復活を通して、わたしたちが神さまの愛に触れ、イエス様と共に歩むものとなるように、イエス様が来てくださったのです。

イエス様の声に聞きましょう。聖書の言葉から、祈りを通して、イエス様の声に聞き、イエス様のみ跡に従って行きたいと思えます。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>